（別紙様式）

令和５年度かながわ学びづくり実践研究推進校　実践報告

～豊かな心と確かな力　瞳輝く寒川の子～

寒川町立一之宮小学校

研究テーマ：他者と考えを伝え合い、認め合いながら学ぶ児童の育成
～考え、議論する道徳の実践～

１　実践の目的

本校では、他者と考えを伝え合い、認め合いながら学ぶ児童の育成を目的に、KSA 三層の道徳教育についての研究をしている。KSA の三層とは、道徳的価値観を「K」、自分の傾向や行動を省みることを適用技能「S」、自分なりによりよくいきていく態度を「A」としている。道徳的価値を教えるのではなく、話し合いの中で気づき、分かったことをこれからの人生でどのように生かしていくかについて考えていく授業展開の研究を進めている。

２　実践の内容

（１）研究授業の概要

６年　単元名「ロレンゾの友だち」

「ロレンゾの友達」は，周囲の噂や偏見に左右されず，友達との信頼関係をもとに行動することの大切さに気付くことができる教材である。罪を犯したかもしれないロレンゾに対して，三者三様の友情のあり方を示すがまとまらず，無実のロレンゾと再会し，友人としてどのようにするべきだったのか改めて考えさせられるという内容である。この教材を通して，児童はお互いを認め合い，高め合える「真の友情」に気付くことができると考える。「よい友達」のあり方を話し合うことで，よりよい友達関係について深く考えていく。

２年　単元名「ぶらんこ」

友達と仲良くするために大切なことは何かについて考えさせ、友達の気持ちを考え、仲良くしようとする心情を育てることを目標にする。教材の中で、友達に乱暴に振る舞ったり、周りの意見を聞かなかったりする自己中心的な考えを持つ「くま」が登場する。そうした時に、周りにいる友達は、「くま」に対してどのように関わるのか、子ども達が自分事として捉えられるように、今回は児童自身がさるだったらどのような声掛けをするのか考えていく。また、友達と仲良く過ごす大切さや難しさについても同時に考えられるようにしていく。

３年　単元名「水やり係」

人の考え方は多様であり、その多様性を互いに認め合うことは、これからの社会を生きていく上で必要不可欠である。多様性を相互に認め合うということは、相手と自分の考えは違うということ、そして、その違いを受け止めた上で互いに考えを伝え合うということである。しかしながら、このような認め合いの大切さをわかっていても、つい自分本位になって自分の立場を守る発言をしてしまったり、相手を非難してしまったりする傾向になりがちな場面も時折見られる。互いの違いを認め合い、理解し合いながら、自分も他者も尊重する姿勢を育てていく。

5年　単元名「ブランコ乗りとピエロ」

児童たちは、これまでの学校生活を通して「お互いの意見が一致し、同じゴールを共有することができて心強かった」というポジティブな側面や、「互いの考えの相違による衝突を繰り返す」など、ネガティブに見える側面を経験している。このような経験から、「意見が違うことで否定された＝人格そのものを否定された」という考えに陥ってしまうことは、児童たちの発達段階を鑑みると、想像に難くない。「ブランコ乗りとピエロ」では、「自分の考えや意見を伝えること・相手の思いや考えを知り、尊重すること」を通して、「相手の立場に立った考え方」を身につける一助としていく。

（２）研究協議の内容

研究協議は、グループに分かれて模造紙に付箋（成果・課題）を貼り、グルーピングする形式で行った。グループごとに児童や教師についてどのような話し合いがなされたのか発表し、その中で、児童が他者と考えを伝え合い認め合いながら学ぶためには、短縮教材を用いて考える時間を増やすことや、心のものさしを活用して多様な立場から話ができるようにすることが効果的であるということが分かった。研究協議を通して、改めて一人ひとりを大切にした授業づくりの大切さについて学ぶことができた。

３　実践の成果

（１）短縮教材を使うことの効果

・時間短縮ができ、考える時間が増えた。
・教材が焦点化され理解がしやすい。
・短縮教材を用いることで、自分事に落とし込む時間が十分にとれる。途中で、切ることで葛藤も生まれやすくなった。

（２）心のものさしを使うことの効果

・自分の意見を明確にし、他の人の意見や理由を自分と照らし合わせて考えられる。また、自分の心の動きを可視化できる。
・考えを伝えるツールとして、根拠を示すよりどころになる。視覚的にも有効である。

（３）YWT の振り返りを使うことの効果

・YWT を活用することによって自分事に落としやすい。
・毎回のふりかえりにより、自分事としてとらえこれからの生活の仕方や自分の生き方について考える良いきっかけとなっている。

４　今後の展開

（１）実践から見えてきた課題

・時間内の話し合いや考えをより深めて、焦点化（フォーカス）していくための手立てや発問について考えていく必要がある
・研究テーマは「他者と考えを伝え合い、認め合いながら学ぶ児童の育成」になっている。他者と考えは伝え合えているとは思うが、認め合いに関しては、課題がある。
・教材で、何を考えさせたいのかを吟味する必要がある。そのために、発問、問い返し、グループワークの在り方の研究を深めていく必要がある。

（２）今後の方向性

・「心のものさし」「短縮教材の有効な使い方」「ＹＷＴ」について活用法をさらに研究していく
・「議論する」道徳に向け研究を深める工夫
→毎時間の内容をどのように焦点化させるか（発問、問い返し、グループワーク）
短縮教材の扱い方をどうするか
気持ちの変容を含めた自己開示の必要性
授業内での意見交流の仕方